

## 郷土の歴史を知ろう！

Part 3

樋爪氏はいつ来たのか？・・・ 樋爪館創建の時期を探る。

## 『土器からみた樋爪館と平泉』

講師 桜井芳彦氏

日本考古学協会会員  
(前紫波町教育委員会生涯学習課主任)

期日 平成22年5月30日(日曜日)

午後2時から

会場 紫波町北日詰字八反田 (JR日詰駅から徒歩2分)

赤石公民館 TEL 019-676-3999

参加料 500円(資料代込み) 恐縮ですが受付で申し受けます。

- 主催 赤石地区ひづめ館懇話会  後援 赤石公民館  
 協賛 紫波郷土史同好会・紫波町平泉関連史跡連携協議会

※ 準備の都合上、参加申込みはFAXまたは電話で、5月28日(金)までに、  
 お願いします。

(当日の参加申し込みも受け付けますが、資料をお渡しできない場合がありますので予めご了承ください。)

FAX・電話番号 019-676-3999

講演会「土器からみた樋爪館と平泉」参加申込書

氏名		電話番号	
住所	〒		

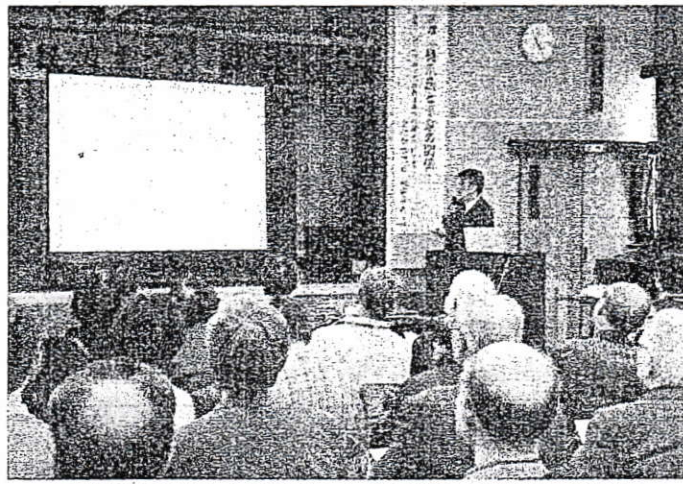
※ お問い合わせは、090-9742-8135 (大沼)・090-3125-3776 (高橋)へ

# 樋爪館は柳之御所級

## 県埋文センター 羽柴専門員講演 そんな色ない出土物

県埋蔵文化財センター文化財専門員の羽柴直人さんを招いて、樋爪氏と平泉の関係をテーマにした講演会(主催・赤石地区ひづめ館懇話会、赤石公民館、紫波郷土史同好会、紫波町平泉関連史跡連携協議会)が1月31日、紫波町の赤石公民館で開かれた。羽柴さんは樋爪館と平泉の柳之御所を比較し「平泉にあるものは樋爪にもある。両者を比較すると樋爪は平泉とほとんど色がない」と話し、樋爪氏の支配領域が北東北に広がり、平泉と同等の力を持っていた可能性を示した。約100人が耳を傾けた。

樋爪館は12世紀前葉に奥州藤原氏の一族の樋爪氏が建てた館。場所は町立赤石小学校の敷地。城の南には五郎沼があり、関連遺跡として薬師堂(現薬師神社)、大注厳寺(江戸初期に盛岡城下に移設、明治初期に廃寺)、島の堂観音(江戸時代に北上川に至るまでの東



赤石公民館で開かれた樋爪氏についての講演会で講演する羽柴さん

五郎沼の中島から東側に移設)、経塚(1934年に五郎沼周辺で発見)がある。これまでは赤石小学校から五郎沼にかけてが樋爪館の範囲と考えられていたが、埋蔵文化財センターの調査で、国道4号を越えて北上川に至るまでの東側一帯に関連史跡があることが明らかになった。羽柴さんは「今年度発掘した小路口遺跡の調査で樋爪館の範囲は1平方メートルあり、これは平泉の都市の広がりとおおむね同じ」と説明した。樋爪館関連の遺跡からは「かわけ」と呼ばれる「かわらけ」、中国産陶磁器、国産磁

器の渥美、常滑、珠洲、水沼が見つかっている。平泉出土とすべて同じ産地。平泉で出土した遺物はすべて見つかる。寺院の配置、居館に付属する池、経筒を有する経塚など一致するところが多いという。

羽柴さんは「樋爪氏は独自の基盤を有する地域権力。奥六郡の実質的な統括は樋爪氏が行っていた可能性も想定すべき。平泉が現在まで文化を継承でき

たのは中尊寺、毛越寺の両寺院の存続が大きき要因。この両寺院が核となり器物、芸能、思想が地域に根付いて継承されていた。樋爪は核となる寺院が盛岡に移され、廃寺になっている。ここに評価の差が生じた」と分析してみせた。

さらに「陸奥奥六郡の中心に樋爪館がある。秋田県の鹿角市内、青森県の旧浪岡町(現青森市)、外ヶ浜町でつくねかわらけが出土しているが、それを見ると平泉のものより樋爪のものに似ている。これだけで語るのには危険かも知れないが、樋爪氏が支配域を拡大している可能性がある」と説明。樋爪氏が北東北の広大なエリアを支配していた可能性が示した。